

れいげん

大光山 霊源寺 寺報 第八号



発行：2017年3月

< 住職あいさつ >

早いもので2017年も3月をすでに過ぎようとしております。3月は別れ、旅立ちの時期にもあたります。先日、私共が関係している札幌の保育園の卒園式に出席してきました。冒頭、園歌の斉唱があり、歌詞には随所に浄土宗の理念「共生（ともいき）」があらわされています。「ともにいきる。ともだちといきる。ともだちとともにいきをする。」卒園式には親御様や祖父母様も参加されて我が子、我が孫を見守っていらっしゃいました。

「共生（ともいき）」とは、ヨコのつながりだけではなく、タテのつながり、私たちの命は私一人の命ではなく、ご先祖さまから未来へつながっていく「いのち」と共に生かされているということを実感しました。また3月は彼岸の季節でもあります。いのちの大切さを実感し、私達を育ててくれたお浄土におられるご先祖さまを思い、お念仏を称え、決意を新たにしていただけだと思います。



(春の増上寺)

< 浄土宗① >

宗祖法然上人のはなし⑧（継承と法難 編）
法然上人が亡くなられてから現在まで800年余りの時が過ぎました。かつては法然上人の下一つの教団であった浄土宗はいくつかに枝分かれをしながらも法然上人当時の教えを今に伝えています。

法然上人にはたくさんの優秀な弟子がいました。その弟子達の中でも、弁長（浄土宗鎮西派）、証空（西山浄土宗）、親鸞（浄土真宗）の教団は法然上人より受け継いだお念仏の教えを広く現在に伝えています。

法然上人には色々な側面があるといえます。日本仏教を旧来までの敷居の高い国家仏教から、誰にでも開かれた民衆仏教へと変えた「改革者」であり、また一方で比叡山時代には 智慧第一の法然房 と言われるほどの「仏教学者」でもありました。そして誰よりも多くの念仏をお称えした専修念仏の行者でもありました。

弁長上人は「専修念仏」を証空上人は「学問」を親鸞上人は「改革者」としてそれぞれが法然上人のお念仏の教えを継承していったといえるのではないのでしょうか。

しかし、法然上人の晩年にはそのような弟子達と別れなければならない時がきてしまいます。当時、法然上人の専修念仏、その教えの革新性から、旧来の日本仏教である、南都（興福寺）北嶺（比叡山）より敵視され数々の弾圧を受け、法然上人のご生前から更に亡き後も浄土宗は何度も存亡の危機に晒されることとなるです。

(次号へ続く)

〈霊源寺の歴史～歴代管理人編④〉

前回まで歴代管理人の紹介をしましたが、今回はもう少し踏み込んで現在の霊源寺に関わっているお坊さんについて書きたいと思います。

住職・太田眞琴と副住職・太田真海は普段、札幌の新善光寺におりまして、葬儀に関しては札幌から来て行くこともあります。普段の法務（法事・盆参り等）はなかなか行うことができません。ということで霊源寺には管理人さんのほかにお坊さんも必要不可欠なのです。古くは伊藤さんという方がおられましたし、管理人兼僧侶として札幌から石山さんという方もわずかな期間ながら在籍していました。

現在は高瀬勇信師（昭和 52 年生）と管理人の中村尚平師（昭和 59 年生）が普段の法務をそして彼岸法要には住職の親戚にあたる佐々木淑公師（昭和 36 年生）にお手伝いいただいています。

高瀬師・中村師は共に在家（お寺の生まれではなく一般家庭ということ）出身です。高瀬師は高校の後輩がお寺の息子という縁で嘘か真かスカウトされてお坊さんになったという逸話の持ち主で、霊源寺と住職の母の生家でもある杉並区にある西方寺に勤務しています。中村師は山口県出身です。どうして霊源寺に流れ着いたかという、京都での修行先の 2 期先輩に太副住職がいたという縁です。現在、お母さんと共に霊源寺の活性化に奮闘中です。

（つづく）

〈法務のお知らせ〉

「納骨堂博眞閣」を初めてから七年が経ち、おかげ様で法事やご回向をさせていただく機会も増えてまいりました。ご命日から定められた年数に行う供養である「年忌」、月の命日である「月己」、ご命日の月にあたる「祥月」、お盆のお参りである「棚経」などの機会にお経を読みご供養をさせていただいております。霊源寺の歴史の項でも紹介してあります様にお坊さんが常駐しておりますので、いつでもお気軽にご依頼、ご相談下さい。



（ 納骨壇前での回向の様子 ）



（ 法事中イメージ ）



（ 法事式場 ）

◆行事予定

平成 29 年 3 月 23 日(木) 午前 11 時より

・春彼岸法要

平成 29 年 9 月（予定）

・秋彼岸法要

◆編集後記

いつもお読みいただきありがとうございます。意外(?)にも実は私、本をよく読むのですが、最近読んだ倉田百三の「出家とその弟子」という戯曲小説は久しぶりに心にグッときました。大正時代からの有名な作品なのでご存知の方も多いと思います。

いつの時代の人間でも共感できる人としての情とそこに矛盾が生じてしまう出家者の苦悩を親鸞と息子の善鸞、弟子の唯円を通して描いた作品です。

筆者自身の当時の悩み（たぶん恋）と宗教にその答えを求めた様が強烈に伝わってくる芸術作品だと思いました。

（中村尚平）

◆次号予告

次号は平成 29 年 9 月の発行予定です。

〒142-0063

東京都品川区荏原 1-1-2

宗教法人 大光山霊源寺

TEL03-3494-1083 FAX03-3494-6319

Mail: reigenji@gmail.com

ホームページ: <http://reigenji.konjiki.jp/>

発行人/太田眞琴